

武相荘 お能への誘いの会 〈第八回〉

山姥

〈講師〉

能楽師 シテ方喜多流
友枝雄人氏

能楽師 小鼓方幸流
成田達志氏

古美術評論家／五蘊会会長
青柳恵介氏

〈開催日〉

2019年4月20日(土)

講演・レクチャー 16:00-17:30頃までを予定

〈参加料〉

A. 勉強会のみ 3,240円

B. 勉強会+ディナー懇親会 7,560円

〈特典〉

山姥の舞台本番、6月15日(土)開催「五蘊会」の
観劇チケットを1割引でお求めいただけます。

〈詳細・お申し込み〉

<https://buaiso.com>

お電話 042-735-5732 (10時-17時/定休日 平日の月曜)

世阿弥作の謡曲「山姥」は、面白く明快なストーリーの根底に
観たもの思わず考えてしまう不思議な問いかけを横たえてい
るお能です。今回はこの「山姥」の本番を間近にひかえる能楽
師のお二人、シテ方の友枝雄人さんと小鼓方の成田達志さんを
講師にお迎えし、それぞれの立場から見た山姥のすがた、魅力
についてお話しを伺います。司会進行はおなじみ青柳恵介氏、
古の時代を立体的に紐解いてくださいます。しめくくりにも能楽
師のお二人による実演もお聞き頂きます。ぜひお楽しみにも！

以前、京には、山姥の山廻りの様子をおもしろく謡い舞って見せる遊女がおり
「百ま山姥」の異名をとり、たいへん評判だった。この遊女があるとき善光寺
参詣を志し、従者一人を連れて旅に出た。
旅路は越中・越後の国境いまで来て、山越えの道に入った。ところが、昼の
さ中に山へ入ったはずが急に日が暮れてしまい、一行は人けの無い山中で、身
動きが取れなくなってしまう。そこへ…忽然と、少々歳のいった女が現れる。
宿を貸そうとの申し出に、ありがたく案内についていくと、女は遊女に山姥の
歌の一節を謡って欲しいと乞う。訝しがる一行に、女は果たして自分こそが真
の山姥であると告げるのであった…。

対談で、知らなかった景色が見えてくる。実演で、能の響きを体感する。